『願い』一歩前へ

長浜市立西中学校　学校だより　第１４号
令和６年２月２９日　発行文責；小川淳三
生活スローガン「あすこそは」
あいさつ・スマイル・こしぼね・そうじ・はきもの

春風（しゅんぷう） 花を開く　梅 早春を開く

月日が経つのは早いもので、２月も最終日。今日は４年に１度のスペシャルデー・閏日（うるうび）です。地球が太陽を１周するのには３６５日と約６時間かかります。この余った６時間を４年分合わせると１日分になることから、ズレを調整する閏年がつくられました。積み重なっていくズレを４年に１回直す日です。私たちの生活を振り返って、ズレているところがあれば直していきたいですね。

３月の登校日は１５日（３年生は８日）です。新たなステージでいいスタートを切るためにも、締めくくりの日々をしっかり過ごしましょう。今日は「ニンニクの日」。スタミナ付けてガンバ！。

『春風 花を開く』という言葉。暖かい春風が吹くことによって花が開いていくという意味です。

春風という周りの環境の力によって、花という成果も生まれるのだということであり、決して自分ひとりだけの力で咲くのではないことに気づかなければならないという意味を表しています。

これは曹洞宗（そうとうしゅう）の開祖（かいそ）である道元（どうげん）が残した言葉だそうです。道元禅師（ぜんじ）はまた、『梅 早春を開く』という言葉も残しています。梅はまだ春になる前に、冷たい風の中で清楚（せいそ）な花を咲かせてくれます。春の訪れがあって花を咲かせるのですが、梅の花が咲くことによって春が開くと感じる。つまり、一人ひとりの心の自覚によって人生が開いていくのだということを意味しているのだそうです。「周りの人（環境）のおかげで」という謙虚（けんきょ）さ。しかし、自分の人生は自分の責任、人に甘えてはならない。この２つが合わさった意味が２つの言葉ではないでしょうか。

「梅 早春に開く」のではなく、梅が早春を開くのです。人生を開く主人公は他の誰でもない、この自分であるということを忘れてはいけません。

「自分は自分の主人公、世界でただひとりの自分をつくっていく責任者」です。他の誰かが自分の人生を決めるのではない、自分が自分の人生を決めているのだということを、『梅 早春を開く』という言葉と共に肝（きも）に銘（めい）じたいと思います。

３月１２日には「第７７回卒業証書授与式」を迎えます。和英辞典で「卒業式」は「graduation ceremony」と出ていますが、アメリカでは「commencement」とも言っているそうです。「コメンスメント」は「始まり」という意味で、長い修業を終えて、一人前の人間としての人生を始めるという、深いニュアンスをもつ言葉だそうです。「卒業」が終了ではなく、その後の人生の「始まり」としている点を大切にしたいと思います。今年は約８００名（保護者も含む）が一堂に会して祝福することができます。新しい門出を人は歌でお祝いしました。３年生は『春風の中で』、在校生は『旅立ちの日に』を歌います。３年生は伝えたい「ありがとう」の想いを込めて優しい「春風」を吹かせてください。そして、勇気を翼に込めて希望の風に乗り、未来を信じて飛び立ってください。みんなで互いの「始まり」を歌でお祝いしましょう。

春風（はるかぜ）の中で

作詞・作曲　山崎朋子

眩しい光に染まる　朝の空
新しい旅が　今はじまる
見慣れた町並み　移りゆくときを
優しい風が　そっと包んでいる

桜咲く春の日　緑萌ゆる夏の日
季節は流れゆく
いつまでも　どこまでも

今あなたに伝えたい「ありがとう」
あふれてくる　すべての想い
心から　心から

今あなたに　手を振って歩き出す
伸ばした手に　小さな夢を握りしめ
明日へと続く道を　歩いていく

遠ざかる声が　風にとけていく
飲み込んだ言葉　言えずにいた
夕焼けの中に　ひとりたたずんで
あの日の歌を　口ずさんでみる

心がくじけても　あきらめないように
信じて進むこと　気づかせてくれたんだ

今あなたと　それぞれの道をいく
まだ見えない　未来に向かい
一歩ずつ　一歩ずつ

今あなたに伝えたい「ありがとう」
ここでまた　会えるその日まで
希望へと　続く道
歩いていく　この場所から
歩いていく・・・

２０１１年３月１１日１４時４６分、東日本大震災の大きな揺れがありました。１３日に行った避難訓練で集合が完了した時刻とほぼ同じでした。「釜石の軌跡」の話と、避難所となった釜石小学校体育館に掲げてあった「校歌」にまつわる話をしました。覚えているでしょうか。

釜石小学校の校長先生の話によると、被災後１１日目に、避難しておられた一人の高齢の女性が、校長先生に向かって次のように言われたのだそうです。
「この学校の校歌はホントにいいですねえ！　私たちの力になります！」と。
避難所になった体育館には、校歌の歌詞が掲げられていて、それを見られた女性が感動されてのことだったそうです。その話を聞いて学校側は、２３日から毎日、ラジオ体操の後に校歌を校内放送で流すことにしたそうです。それは学校が避難所でなくなった８月までずっと続けられ、被災者の心の支えになったのだそうです。（インターネット記事より）

釜石市立釜石小学校校歌
作詞　井上ひさし
作曲　宇野　誠一郎

いきいき生きる　いきいき生きる
ひとりで立って　まっすぐ生きる
困ったときは　目をあげて
星を目当てに　まっすぐ生きる
息あるうちは　いきいき生きる

はっきり話す　はっきり話す
びくびくせずに　はっきり話す
困ったときは　あわてずに
人間について　よく考える
考えたなら　はっきり話す

しっかりつかむ　しっかりつかむ
まことの知恵を　しっかりつかむ
困ったときは　手を出して
ともだちの手を　しっかりつかむ
手と手をつないで　しっかり生きる

井上ひさしさんの詞は生き抜くことを歌っていて、今読み返してみても勇気やエネルギーが湧き出てくるようです。校歌としては珍しく、歌詞に固有名詞（学校名や地名など）が出てきません。誰にとってもの応援歌になるこの校歌は、震災以降も多くの人の心に響き続けているそうです。井上さんは「ひょっこりひょうたん島」の作者。「にしタン」とのつながりを勝手に喜んでいます。

本校は昭和２２年４月２８日、長浜市立第一中学校として創立され、昭和２６(1951)年４月１日に西中学校と改名されました。当時の面影を残している建物は現存しませんが、校歌はずっと歌い継がれてきました。昨年度末で１９，５１６名の若人（中学生）が本校を巣立っていきました。

私は、グラウンドや３階多目的室前廊下から眺める伊吹山が大好きです。開校当時の校舎周辺に建物は少なく、先輩方は伊吹山をもっと身近に感じておられたことでしょう。顔を上げれば、そこに希望を宿すかのようにそびえ立つ伊吹山。そこから昇る太陽の光は、西中学校を明るく照らしてくれます。たとえ暗雲が立ちこめようとも「正しき誠(-中校歌では「正義」と書いて、正しきまことと歌っていました)」が雲を払いのけます。正しき誠は、自分の心の中で育てていくものです。校歌に込められた「願い」を胸に、心を高く・清く・広くもって、歌い継いでほしいと思います。

西中学校　校歌
作詞　脇坂静波
作曲　田村光治

正しき誠　雲をはろうて
我が望み　やどす伊吹
日は昇る　あけき西中
若人の　心は高し

けがれぬ誠　ちりをはろうて
我がなさけ　あふる姉川
せせらぎの　うたう西中
若人の　心は清し

やわらぎの誠　とげをしずめ
我が願い　うつす湖
さざなみの　笑う西中
若人の　心は広し

３月の主な学校行事予定

１（金）１年生：がん教育⑤⑥
６（水）県立高校一般学力検査
７（木）部活動送別会
８（金）１年生：曳山サミット説明講話
１１（月）３年生：同窓会入会式、式練習　前日準備
１２（火）「第７７回卒業証書授与式」
１３（水）県立高校入学許可予定者発表
１５（金）１・２年：球技大会
１９（火）小学校卒業式
２１（木）学年集会　大掃除
２２（金）修了式

☆学年行事の詳細は各学年より連絡します。